

20th MELTA International Conference 参加報告

笹島茂（埼玉医科大学）

第20回 MELTA International Conference は、2011年5月30日から6月1日にかけて、Kuala Terengganu の Primula Beach Hotel で行なわれた。テーマは、"English Language Education and Global Learning: Policy, Practice, Performance" である。2007年に Asia TEFL が Kuala Lumpur で行なわれたとき以来のマレーシア訪問である。

The Malaysian English Language Teaching Association (MELTA)は、各地に支部を持ち英語教育を研究し推進するマレーシアを代表する英語教育組織である。参加にあたって本を寄贈するように依頼された。地方の子供たちに本を贈る活動をしているそうである。単に研究だけではなく、様々な活動を実施しているようだ。日本に関する本を2冊持って行き、受付の際に MELT-A-HEART のブースに提出した。大変喜ばれ、その日からいつも前面に置いてもらった。開会式でも、そのような活動を推進するためにスポンサーを大事にしていると感じた。悪い面もあるだろうが、大切なことである。

開会は国歌斉唱などもあり儀式的に始まり、会長などの挨拶や功労者に対する表彰が行なわれた。続いて、地元の名士の妻として活躍している Toh Puan Seri Wan Hibatul Hidayah Wan Ismail 氏の講演があった。演題は、'English Language and the Educational Journey of a Malaysian Woman'で、女性として英語や教育とどうかかわってきて、どのように考えているかという話だった。研究というよりもマレーシアにおける女性の位置を理解するうえで貴重の話だった。講演の後、'Current Developments in Malaysian Education: Innovation Leads Global Learning'という題でパネルディスカッションが行なわれた。マレーシアで実施されている3つのプロジェクト、Trust Schools, Teach for Malaysia, Teaching English Language and Literacies の目的と内容に関する話だった。実際にどの程度の範囲で実施されているのか判断できないが、大会のテーマにそった内容であり、参考になった。

午後に入り、二つの講演があった。インドネシアの英語教育とある企業による英語プログラムの話だった。グローバリズムの中でいかに教育力を高め、それに英語教育がどうかかわるかという趣旨である。これも大会テーマにふさわ

しく、情報としては貴重だったが、特に目新しい内容ではなかったように思う。大会一日目は、その他にいくつかの発表を聞いたが、特にここで取り上げるべき発表はなかったので割愛する。

二日目は、拙のプレゼンテーションが午前中に予定されていた。内容は、医学部における CLIL (Content and Language Integrated Learning) (内容とことばを統合した学習) 実践に関するものである。マレーシアでは、理科や数学を英語で教えるという政策 (PPSMI) が 2003 年より実施されているが、それが 2012 年をもって終了し、マレー語による授業に戻ることになっている。それと絡めた話をして、情報交換を図りたかったというのが MELTA 参加の大きな理由だった。しかし、PPSMI は英語教育とは直接関係がないことと CLIL ということ自体がほとんど知られていなかったために、あまり実のある議論はできなかったのが残念である。それでも熱心な聴講者からは質問も出て、今後も情報交換することを約束できたことは有意義であった。発表のタイトルとアブストラクトは、この報告書のさいごに添付しておくので見てほしい。

その後、'Global Innovations: Models for Education Transformations in Malaysia' という演題で全体セッションが行なわれた。マレーシアでのグローバル教育についてそれぞれの教育関連企業からの提言である。昼食をはさんで次に行なわれた二つの講演は、'Supporting Students with Special Needs in both Inclusive and Special Educational Settings: Collaborative Roles of Regular and Special Education Teachers')(マレーシアの特別支援教育に関する内容)(Lee Lay Wah と、'Teacher Readiness and the Challenges of Teaching a Changing Language' (フィリピンの英語に対する教師の考えに関する内容) (Isabel Pefianco Martin) である。二つの話の関連は、教師の考え方に焦点を当てたことだ。一見あまり関連性のない話題であるが、言語教師認知の研究をしている者としてたいへん興味深く聞いた。CLIL にもある面で共通することであるが、様々な教師の教育全般や言語教育に関する考え方を、言語教師が言語教育の観点から理解しようとすることは意義深い。

他にも個人的に興味のある発表を聞いた。その中で一つだけ触れておきたい。それは、'Malaysian pre-service teachers' efficacy for instructional strategies in the teaching of English in a foreign setting' という題で、大学院生の Muhammad Farhan Bin Ramly 氏の発表である。発表自体は正直特筆すべき内容ではなかったが、状況が面白かった。おそらく、彼にとってははじめての発

表だったようで、私が会場に入った瞬間に緊張が走り、発表がその空気の中で始まった。後から気づいたことだが、私以外の聴講者はみな同じ教職課程の仲間だった。つまり、ほとんど私一人に向かって説明してくれたということである。発表が終り質問したらそのことが分かり、和やかな雰囲気になり、他の参加者からも養成課程について細かいことも聞くことができた。私の今回の目的の一つでもあるマレーシアの英語教員養成課程についてその一端を知ることができてたいへん興味深かった。

最終日に行なわれた講演は、タイの ThaiTESOL の代表の ‘Globalization and English Language Teaching: Perspectives of Thai University Students’ (Suchada Nimmannit) と KATE の代表の ‘Teaching English as an International Language in Asian Context: Issues, Challenges, and Resolutions’ (Joo-Kyung Park) の二つである。それぞれの国でいま英語教育がどのように進行しているかという話であった。話半分に聞いても、タイでも韓国でも着実に英語によるグローバル化が進んでいることがよく分かった。しかし、この傾向を「英語帝国主義」と批判しても始まらない。言語教育が政治や社会と深く関係するのは当然である。そのことを英語教師も自覚しておかなくてはならないと強く感じた。多言語環境の中で英語とグローバリズムの流れをどのように消化していくのかは、それぞれの国にはそれぞれの事情があり歴史があるので、日本は日本の立場でしっかりとこの問題を考えていく必要があるだろう。

今回の MELTA の参加で、多くの人から東日本大震災のことを聞かれた。皆一様に日本は大変な状況だと思っているようだが、やはり他所の国のことである。それほど心配しているわけではないし、詳細は知らないようだ。マレーシアと日本の関係は深いが、日本の人の多くが英語が話せないということは不思議だとも言われた。東日本大震災の現在の状況を説明すると、一様に震災の際の日本人の静かな対応はかなり印象的なことのようにである。多くの人が不思議に思っているようだ。現状はそれほど冷静に対応しているわけではないし、福島原発も含めて今後も多くの問題をかかえながら日本は復興に向けてやっていると説明した。現地の新聞にも日本の記事は載っていたが、日本は多くの情報を発信していないと強く感じる。日本企業はマレーシアに進出しているが、人と人とのコミュニケーションはまだ希薄である。大会テーマと関連して、日本の英語教育はもっと政策的にしっかりとやらなければいけないのではないかと

思った。

大会全体を通じて印象に残った点は、参加者は延べで 500 人に満たないが、出版社などの展示、教育関連の企業の企画が多く、ビジネス的な要素と交流ということに重きを置いているということである。参加者には昼食やコーヒーがすべて提供されていて、情報を交換したり、交流を深めたりする機会としている要素が強い大会運営である。大会の場所もリゾート地で他にも家族連れのホテル客もいて、大会参加者も半分は観光を兼ねている雰囲気があった。ちょうど学校が 2 週間の長期休業中にあたる期間に大会が行なわれているからだろう。

以上、MELTA の 3 日間の大会について報告した。今回は著名な講演者が招待されていたわけではなかったが、多言語多民族の国、マレーシアでの英語の位置づけの理解が多少以前より深まった気がする。英語は小学校入学前から教えられているが、すべての人が英語が堪能というわけではなく、また、国語であるマレー語の位置づけ、さらには、中国語やタミル語などを母語とする人や民族や宗教などが、複雑に絡み合う。その中で、英語教育とグローバル学習とどう向き合うのかは、今後のアジア全体の課題となるだろう。マレーシアでその一端が垣間見えた。

発表内容要旨(40 分)

Content and Language Integrated Learning for Japanese Medical Students

Content and Language Integrated Learning (CLIL) has been implemented in many countries in Europe such as Finland and Spain, but it has yet to become familiar in Asia. Marsh (1994) defines that 'CLIL refers to situations where subjects, or parts of subjects, are taught through a foreign language with dual-focused aims, namely the learning of content and the simultaneous learning of a foreign language' (<http://www.onestopenglish.com/>). CLIL is almost the same as English-medium teaching in Asia, and may sometimes be called bilingual or immersion teaching. Teaching of Science and Mathematics in English (TeSME) in Malaysia, for example, has been conducted since 2003, but it seems that the program is not successful. However, CLIL has potentials in Asia. In 2009, we started CLIL-based English courses for medical students to review basic sciences through English. The purpose of the CLIL courses is to learn English necessary for

the study of medicine and to review basic science knowledge. Following the CLIL four key concepts, which are Content, Culture (Community), Cognition and Communication, we have helped students to share information with each other, form a learning community, and develop knowledge and skills acquired through learning basic sciences in English. Although we still face some problems in implementing CLIL methodology, we have selected topics and provided tasks that highlight content as well as language. The current findings clearly show that CLIL-typed approaches can be effective for English classrooms at medical universities in terms of their motivation, needs, and learning styles. The issues in implementing CLIL methodology in Asia will also be discussed.